

■参考様式1 従業員の勤務の体制及び勤務形態一覧表の書き方(例)

(参考様式1)

従業員の勤務の体制及び勤務形態一覧表 (18年4月分)

サービス種類(訪問介護)

事業所名(株式会社 トチギヘルプサービス)

記載例

職種	勤務形態	氏名	第1週							第2週							第3週							第4週							4週 の合 計	週 平均 の勤 務時 間	常 勤換 算後 の 人員	備考
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
			*	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金				
管理者	B	栃木太郎			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	80	20		
サービス提供責任者	A	鈴木春子			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8	160	40		
訪問介護員	A	田中夏子			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8	160	40		
	A	栃木秋子			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			8	8	8	8	8	160	40		
	B	栃木太郎			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	80	20		
	B	佐藤冬子			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4			4	4	4	4	4	80	20		
	C	小林晴美			8		8		4			8		8		4			8		8		4			8		8		4	80	20		
	C	山川夏美			8		8	4			8		8	4				8		8	4				8		8	4		80	20			
		計																												800	200	5.0		

備考1 * 欄には、当該月の曜日を記入してください。

- 申請する事業に係る従業員全員(管理者を含む。)について、4週間分の勤務すべき時間数を記入してください。夜勤、準夜勤については、網かけをする等その旨を表示してください。
- 職種ごとに下記の勤務形態の区分の順にまとめて記載し、「週平均の勤務時間」については、職種ごとの小計と、B～Dまでを加えたかずの小計の行を挿入してください。
勤務形態の区分 A:常勤で専従 B:常勤で兼務 C:常勤以外で専従 D:常勤以外で兼務
- 常勤換算が必要な職種は、A～D の「週平均の勤務時間」をすべて足し、常勤の従業員が週に勤務すべき時間数で割って、「常勤換算後の人数」を計算してください。
- サービス提供が単位(共同生活住居を含む。)ごとに行われるサービス種類の場合は、各単位ごとに記入してください。
- 算出にあたっては、少数点第2位以下を切り捨ててください。
- 当該事業所・施設に係る組織体制図を添付してください。
- 各事業所・施設において使用している勤務割表等(既に事業を実施しているときは直近月の実績)により、職種、勤務形態、氏名及び当該業務の勤務時間が確認できる場合は、その書類をもって添付書類として差し支えありません。